

クボタ バーコードで廃棄物を計量管理



容易に廃棄物が管理できる「SP500エコシリーズ」

クボタは、このほど、バーコードを使ってオフィスの排出される廃棄物や工場などから出る廃棄物を計量・管理する「廃棄物計量システム」を開発。本格販売を開始する。

このシステムは、日常的に排出される廃棄物情報を排出部門やごみの種類ごとに把握することで、台帳や指示計、バーコードを指示計に入力してごみの減量化や再資源化を促進。さらに取り組み名やテナント名、ごみ種

減量化など3R推進に

なを登録したバーコード(ラベル)を袋に貼付。その後、計量台上でコードを読み取り、計量情報を指示計に入力してから収集場所へ運ぶという仕組み。指示計は大型タッチパネルと音声ガイドで操作しやすく、管理・集計ソフトをパソコンにインストールすれば、日次、月次、年次の定型帳票も作成できる。重量に応じて全8形式あり、300プログラムまで計れる標準タイプで価格は110万円。今後の需要増に期待をかける。

このシステムは、ほかのトラックスケールを中心に活動している同社の計量システム部が2000年に開発したシステムをリニューアルしたもので、大阪府八尾市の久宝寺事業センター(072・9933・1977)が扱う。同社では、3R推進に役立つツールとして工場やテナントビル、自治体の庁舎向けに廃棄物営業し採用を働きかける。